

福岡市教育委員会賞

「税は私の夢実現の架け橋」

福岡市立梅林中学校 3年

古賀 瑞希

私には夢があります。それは好きな英語を磨き、将来は世界に羽ばたき、国際人として活躍することです。そんな夢を抱ききっかけになったのは、小学校高学年の時に日本にやってきた中国人の友達との交流に始まります。近所の英会話教室に通って少し英語が話せた私は、二人の共通の言語である英語を介して積極的にコミュニケーションを図り、親交を深め合いました。彼女は現在、アメリカの学校に在籍して、将来はハーバード大学に入学して国際人として活躍する夢を抱き、日夜勉強に励んでいます。そんな彼女に触発され、いつの日か私も同じような夢を抱き始めたのでした。そして私にこの夏、夢実現への一步となる出来事がありました。

「グローバルチャレンジ・イン・プサン」これは、福岡市と友好姉妹都市である韓国釜山広域市にある「グローバルビレッジ」で夏休みの十日間、福岡市内の中学生七十名と韓国の中学生が交流を深める事業です。英語の大好きな私はすぐに応募し、中学校、そして福岡市の代表として参加しました。すべて英語ばかりの生活と聞いて、初めは不安が大きかったのですが、互いの文化を身振り手振りを使って紹介し合い、積極的にコミュニケーションを図って、英語を話すことに自信をつけて帰国しました。そして自分の夢実現に向けて更に強い意欲がもてたことは言うまでもありません。この事業は、福岡市教育委員会が掲げている「福岡らしい国際教育」の一環として今年初めて実施されたもので、前年度市議会で十分審議された結果、予算化され実施されたと聞いています。まさに私は福岡市の大事な税金で貴重な経験をさせて頂いたわけです。

他にも現在福岡市の中学校には、ネイティブ・スピーカーと呼ばれる英語の先生が市内各中学校に常駐して、いつでもどこでも生の英語で会話ができる環境にあります。また、昨年から全市一斉に英語検定試験を実施し、学校・クラスをあげて全員合格に向けて英語学習を重ねている毎日です。これらすべてが、福岡市の貴重な教育予算でまかなわれていることを改めて認識させられたところでした。

このような福岡市の取り組みがなかったら、もしかしたら私は教科書の上だけの勉強で、英語に自信がもてなかったかもしれません。そして私の夢はまさに夢で終わっていたかもしれません。そう思うと大げさかもしれませんが、私にとって税とは、愛情と同じで、生きていく上でなくてはならないもの、見えないところでいつもしっかりサポートして、夢実現を応援してくれる存在なのです。そう、税は私の夢実現の架け橋なのです。